



辛卯 2011 兔年						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
02 廿八	03 廿九	04 初一	05 初二	06 初三	07 初四	08 初五
09 初六	10 初七	11 初八	12 初九	13 初十	14 十一	15 十二
16 十三	17 十四	18 十五	19 十六	20 十七	21 十八	22 十九
23 二十	24 廿一	25 廿二	26 廿三	27 廿四	28 廿五	29 廿六
30 廿七	31 廿八					

1 月



第 1 周



星期一

こうえん

公園のベンチにこしかけて 坐在公园长椅上

まさこ い と
真子は何かを言いかけたが、うつむき口を閉ざした。

「なんだよ」

しゅうじ い
修二はイライラしながら言った。

「……」

おれ
「俺、おまえのそういうところ嫌い」



「ごめんなさい」

まさこ せいかく じぶん いけん い
真子はおとなしい性格だった。自分の意見をはっきり言えなかった。

しょうがくせい と き げんいん こうに いま まさこ
小学生の時からそれが原因でいじめられ、高2の今も真子はいじめられていた。

しゅうじ しょうがくろくねん くらす おな まさこ し
修二は小学六年のとき、クラスが同じになってから真子を知った。

まさこ しゅうじ まさこ
いじめられている真子のことをほうっておけなかった。なにかにつけて修二は真子のそばにいた。周りにはからかわれていたが、そんなこと気にならなかった。

しょうがくせい ぜんぜんしんぽ
「おまえ、小学生のときから全然進歩ねーよな」

しゅうじくん
「修二君も」

い
「なに言ってんだよ」

しゅうじ まさこ あたま かる
修二は真子の頭を軽くたたいた。

こうえん ベンチ すわ ふたり はな しょうがくせい か
公園のベンチに座って二人で話す。小学生のときからの変わらないこの

しゅうかん
習慣。

1 月

2 月

3 月

4 月

5 月

6 月

7 月

8 月

9 月

10 月

11 月

12 月

まさこ なに たいせつ なに たの じかん
真子にとって何より大切に、何より楽しい時間だった。

こうえん こうびにえんすすとあ ふたり すがた み きょうこ
公園のそばにあるコンビニエンスストアで、二人の姿をじっと見ている恭子と
と ま あんず さえ すがた
取り巻きの杏子と紗枝の姿があった。

きょうこ まさこ きら しょうがくせい できごと ひいらい きら つづ
恭子は真子が嫌いだった。小学生のあの出来事があった日以来ずっと嫌い続
けていた。

えす かれー としき がっこう かよ まさこ しゅうじ きょうこ しょうろく くらす
エスカレート式の学校へ通う真子と修二と恭子は小六のときからクラスが
いっしょ
一緒だった。

きょうこ まさこ み いらいら おさ う ば
恭子は真子を見ているだけでイライラして抑えようがなかった。その憂さ晴らしの
くらす せんどう まさこ
ために、クラスを扇動して真子をいじめてきた。

たんじゅん まさこ きら
だが単純に、真子のことが嫌いだからいじめてきたわけじゃなかった。

きょうこ しゅうじ す しゅうじ いっしょ まさこ にく
恭子は修二が好きだった。だからよりいっそう修二と一緒にいる真子が憎かった。

きょうこ じぶん ようし じしん しゅうい みと じじつ
恭子は自分の容姿には自信があったし、それは周囲も認めた事実だった。

くら まった かわい まさこ どこ
「あんな暗くて、全く可愛くない真子のドコ

が いいのよ」

ことば きょうこ くちぐせ
この言葉は恭子の口癖になっていた。

あんず さえ きょうこ たい
杏子と紗枝はそんな恭子に対し「そうだよ。

きょうこ ぜったい い つね
恭子のほうが絶対にいいのに」と言うことが常だった。

词汇链接



出来事：活动

姿：样子，姿势

せんどう

扇動する：扇动，转动



せいしんか できごと
精神科での出来事 精神病科的活动

ちが
「あの、違うんですか！」

め まる うさぎ も ま せなか ま しろ かみ
目をまん丸くして、ウサギのぬいぐるみを持ったまま、曲がった背中のまま、真っ白な髪の毛の

け かのじょ い
毛の彼女は言った。

わたし へや
「じゃあ私の部屋はどこなんです！！！」

「こっちですよ。」



1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

わたし かのじょ かのじょ へや あんない
と、私は彼女を彼女の部屋に案内してやった。

かのじょ で き へいさびょうとうない ある
しかし、彼女はまたそこから出て来て、閉鎖病棟内を歩いていた。

やきんたんどう かんごふ
すると、夜勤担当の看護婦がやってきて、

で き
「あー——〇〇さん！！また出て来て！！！！

へや はい
あなた、もうここの部屋に入っていないさい。」

かんごふ おまる かのじょ へや い
そういって、看護婦は、オマルを彼女の部屋に入
どあ かぎ そと
れて、ドアの鍵を外からかけてしまった。

どんどんどん
すると、ドンドンドン！

へや おと き と ねどこ め まる
と部屋から音がしていたが、気に留めないようにして、寝床についたが、目をまん丸くして、
おも と こ
いた〇〇さんが、かわいくも思えたが、閉じ込められてちょっとかわいそうだった。

词汇链接



ましろ
真っ白な：纯白色的

看護婦：护士

夜勤：夜班



うらにわ ひさん 裏庭での悲惨ないじめ 后院里的欺辱

おおかがくえんこうとうぶにねんさんくみ まさこ くらす しゅうじ おとこともだち わら
大賀学園高等部二年三組が真子のいるクラスだ。修二が男 友 達と笑いあっ
あいだ あんず まさこ そば こごえ つぶや
ている 間 に、杏子が真子の側にきて小声で 呟 いた。

まさこ はなし
「真子、ちょっと 話 があんだけど。」

ろくねんいじょう か あいず ことば まさこ からだ ふる
六 年 以 上 も変わらないいじめられる合図の言葉。真子の 体 は震えだした。

「ついてきな」

あんず つめ い はな きょうしつ
杏子は冷たく言い放ち教 室 をでた。

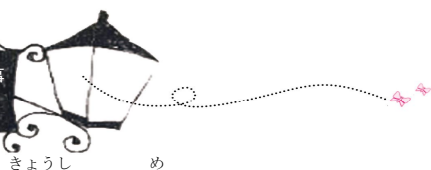
まさこ あと
真子はおびえながらも後についていくしかなかった。

がくえん なかにわ からだ うご はな じかん す かた たの
学 園 の 中 庭 は 体 を動かしたり、話したり、それぞれの時間の過ごし方で楽し
ひと かつき はんめん うらにわ
む人がいて活気にあふれていた。その反 面、裏 庭 はひっそり静けさが漂っていた。

うらにわ まさこ さいてき ばしょ
裏 庭 は真子をいじめる最 適 の場所だった。

うらにわ すで きょうこ さえ くらす じょしすうにん あつ
裏 庭 には既に恭 子と紗枝、クラスの女子数人が集まっていた。

きょうこ ゆうとうせい いしや べんごし りょうしん たいりょう きふ たしょう
恭 子 は優 等 生 だったし、医者と弁護士の 両 親 の 大 量 の寄付のおかげで多 少



1月

のこともならと教師たちは目をつぶっていた。いじめに気づいた教師たちもいたが我が
身みのかわいさに知らないフリふりを続つづけた。

2月

真子まさこは下したを向むき、顔かおをあげようとはしなかった。

3月

「おまえのそういうイジイジしたところが気に食きわないんだよ」
杏子あんずは思い切り校舎おも き こうしゃの薄汚うすよごれた壁かべに真子まさこを容赦ようしやなくたたきつけた。

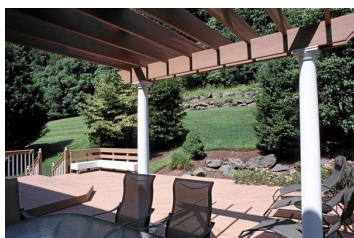
4月

真子まさこの制服せいふくはたたきつけられた壁かべによって汚よごれ、バランスをくずし土ばらんすの上つちにしゃ
がみ込んだ。

5月

「きったねー。お前まえにはそういう汚よごれが似合にあつ
てるよ」

杏子あんずは皮肉ひにくな笑えみを浮うかべ、紗枝さえたちは笑わらい声ごえ



6月

をあげた。
紗枝さえはしゃがんで土つちを手てで握にぎりしめ、真子まさこに向むかって投なげつけた。

7月

それを開始かいしの合図あいずに周まわりの女子生徒じょしせいが同おなじように土つちを真子まさこに投なげつけた。

8月

「お願い。やめて。」
真子まさこの必死ひっしの懇願こんがんも杏子きやうこたちに拍車はくしゃをかけるだけだった。
真子まさこは震えふるがとまらなくなった。紗枝さえは真子まさこの髪かみを強つよく握にぎり、思い切り土おも き つちの上うえに
倒たおし顔かおを土つちに擦こりつけた。

9月

「あんたが少しでも綺麗すこになるように化粧けしょうしてやってんだよ。このブス。」

恭子きやうこは一歩下いちほさがって真子まさこがいじめられる

光景こうけいを見つめていた。

恭子きやうこ自身こじしんは決けつして真子まさこには手てを出ださなかつ

た。真子まさこをののしることはあっても。

——恭子きやうこちゃん。私わたしね。

词汇链接



いじめ：欺侮，凌虐

皮肉な：讽刺的

綺麗に：漂亮的，好看的



しつもん 質問 問題

まよなか やまみち おとこ ひとり て も すこつぷ あな ほ すうじかんご

真夜中の山道で、男は一人せつせと手に持ったスコップで穴を掘り、そして・・数時間後、
できあ あな うえ のの ひ さら うえ うす つち も おとこ まんぞく え う
出来上がった穴の上に布を引き、更にその上に薄く土を盛ると男は満足そうに笑みを浮か
あか やまみち お い
べ、明るくなりかけた山道を下りて行きました。

つぎ ひ まよなか おとこ お あな ぼしょ い いっぴき いぬ
そして次の日の真夜中、男が落とし穴の場所に言ってみると、そこには一匹の犬が、
いぬ じぶん みあ おとこ き しっぽ さゆう ふりふり
犬は自分を見上げる男に気がつく、うれしそうにシッポを左右にフリフリ。

で
「やあ・・ここから出たいかい？」

おとこ いぬ き いぬ おとこ ことば わ
男は、犬にそう聞きましたが、犬には男の言葉が分かるわけもなく。

「ワン、ワン」

おとこ て も すこつぷ あな いぬ い う
すると男は手に持ったスコップで穴ごと犬を生き埋めにしてしまいました。

つぎ ひ つぎ ひ おとこ く かえ あな ほ お もの しつもん
そして、次の日も、次の日も、男は繰り返し穴を掘り、そこに落ちた者に質問しましたが、
だれ おとこ と こた
結局、誰も男の問いに答えてはくれません。

かれ みな おとこ ことば りかい
なぜなら彼らは皆、男の言葉が理解できない。

かれ けもの にんげん
彼らは獣、人間ではなかったから・・。

つぎ あな お ちい あか だ きれい じよせい
しかし、次に穴に落ちていたのは、小さな赤ちゃんを抱いた綺麗な女性でした。

おとこ じよせい き
男は女性にこう聞きました。

で
「ここから出たいかい？」

じよせい ふる こえ
女性は震える声で、

「はい・・・」

おとこ い
すると男はこう言いました。

まえ で
「お前も出たいかい？」

おとこ じよせい だ あか き ことば おぼ あか
男は、女性が抱く赤ちゃんにそう聞きましたが、まだ言葉を覚えていない赤ちゃんはた
ははおや うで なか すやすや ね
だただ、母親の腕の中でスヤスヤと寝ています。



おとこ ざんねん いき て も
男 は 残念 そうに た め 息 を つく と 手 に 持 っ た
すこっぶ ふたり う
スコープ で 二 人 を 生 め て し ま い ま し た 。

かんたん しつもん こた
「こ ん な 簡 単 な 質 問 に も 答 え ら れ な い と は …」

おとこ なげ ひとりやまみち お
男 は そ う 嘆 く と、一 人 山 道 を 下 り て い き ま し た 。

词汇链接



まよなか

真夜中：深夜

あか

赤ちゃん：婴孩，婴儿

うで なか

腕の中：怀中，怀里



星期五

ま
こ こ で 待 っ て る 在 这 里 等 着

さまざま はなばな みだ おか うえ ふたり わかもの た
様 々 な 花 々 が 咲 き 乱 れ る 丘 の 上 に、二 人 の 若 者 が 立 っ て い た 。

りょう て ひとみ
両 の 手 を つ な ぎ、瞳 を あ わ せ る 。

おれ あした こく ま
「俺 は 明 日 の こ の 刻 に、こ こ で 待 っ て る か ら」

かれ い かのじょ せ む ふ む ある
彼 は そ う 言 い、彼 女 に 背 を 向 け る と、振 り 向 か ず に 歩 い て い っ た 。

かのじょ かれ むね かがや ペンダント にぎ し あした こんぎ おも
彼 女 は、彼 に も ら っ た 胸 に 輝 く ペンダント を 握 り 締 め、明 日 の 婚 儀 に 思 い を は
せ た 。

おのれ やくわり うんめい み
己 の 役 割 を 全 う せ ね ば と い う 運 命 に 身 を
した む くちびる か
ゆ だ ね、下 を 向 き 唇 を 嚙 み し め た 。

ひとみ なが なみだ かんじょう ものがた
瞳 か ら 流 れ る 涙 が 感 情 を 物 語 っ て い る 。

こごえ つぶや
そ し て、小 声 で 呟 く の だ っ た 。

い
「あ な た の も と に は 行 け な い わ」

词汇链接



わかもの

若者：年轻人，青年

さまざま

様々な：各种各样的

ひとみ

瞳：眼睛，眼眸



星期一

たまご 鸡蛋

おとこ こ たまご
男 の 子 は 卵 を あ た た め て い た 。

だいどころ も たまご だいじ だいじ
台 所 か ら こ っ そ り 持 っ て き た 卵 を 大 事 に 大 事 に 。

あさ お
「も う 朝 よ、起 き な さ い」



第 2 周



1月

い おとこ こ ふとん もぐ たまご
言われても 男の子は布団に潜ったまま、卵をあたためていた。

う なん なまえ
ひなが生まれたら何て名前にしようかな

なに
ごはんは何をあげたらいいのかな

ねこ み き
猫に見つからないように気をつけなくちゃ

かんが
そんなことを 考 えながら。

れいぞうこ はい たまご だめ
こないだのは、冷蔵庫に入ってた 卵 だったからダメだったんだ

わた つつ ひさま あ だめ
綿で包んだりお日様が当たるところにおくだけじゃダメなんだ

やっぱりこうしてお腹であたためてあげなくちゃ

かんが
そんなことを 考 えながら。

ようちえん い じかん お
「もう幼稚園に行く時間よ、起きなさい」

い おとこ こ ふとん む だ
言われて 男の子は、しぶしぶ布団から抜け出した。

たまご ふとん なか お
卵は布団の中にそっと置いたまま。

ようちえん かえ おとこ こ た
幼稚園から帰ると、男の子はおやつも食わずに

ふとん
布団にもぐりこんだ。

たまご
でもそこには 卵 がない。

おとこ こ な
男の子は泣いた。



词汇链接



ふとん
布団：被褥，棉被

冷蔵庫：冰箱

幼稚園：幼儿园

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月



星期二

みそ か
晦日 除夕

どき どき しんぞう ひめい あ
ドキドキと、心臓が悲鳴を上げる。

し つ いた こちち くる
締め付けられるような痛みは、どこか心地よい苦しみだった。

ことし
もうすぐ、今年が終わる。

きょねん ゆう おおみそか
去年までは、憂うつだった大晦日。

おとな ちかづ き おとな
どんどん大人に近付いてゆく気がして、それなのにちっとも大人になれなくて。

とし あ おも
年なんて明けなければいい、と思っていた。



1月

はつもうで
「初詣、か」

2月

こゆび み しぜん かお あつ
じつと小指を見つめると、自然と顔が熱くなる。

た わたし あし
耐えかねた 私は、じたばたと足をばたつかせた。

3月

がんだん ふたり じゅうようせい かれ
元旦を二人で過ごすことの重要性を、彼はわかっているのだろうか。

ゆめ
もしかすると、夢だったのではないか。

4月

な やくそく かんが
あまりにもあっさりとなされた約束だったので、そんなことすら考えてしまう。

(やくそく)
『約束な』

だいす こえ おも だ うれ おの
大好きなあの声を思い出せば、嬉しくて、自

ずとにやけてしまっ

いちねん ゆいいつ よふ ゆる ひ
一年で唯一、夜更かしが許されるこの日。

6月

あした ことし ね
明日のために、今年だけは早く寝よう、なんて。

きんちょう ねむ よる く ねんとう お わたし のんき
緊張で眠れぬ夜が来ることも念頭に置いていなかった 私は、暢気にも考えて

いた。



ひまわり 向日葵

星期三

8月

かていようしゅれっだ うな あ た た ちようぼ どんよく た つづ
家庭用シュレッダーが唸りを上げて、溜まりに溜まった帳簿を食欲に食べ続けている。

つま もくもく ちようぼ ほっちきす きんぞくふあすな はず
妻は黙々と帳簿のホッチキスや金属ファスナーを外し、

しゅれっだ しよくじ とだ べ ぼ
シュレッダーの食事を途絶えさせないように、ペーパーだけにして

おっと わき つ あ
夫の脇に積み上げている。

ねんかんつづ かいしゃ けつきよくはさん
35年間続けてきた会社を、結局破産させねばならなく

むねん そうかんじょうもとちよう べ じ わ あ
なった無念さが、総勘定元帳のそれぞれのページから湧き上がってくる。

はさんしよりしんせい よる ゆいいつがいしゃ しつけい しなもの かていようしゅれっだ
破産処理申請の夜に、唯一会社から失敬した品物が、この家庭用シュレッダーだ。

なんしゅるい しんきぶんべつしゅうしゅう かみ す こと きよねん
20何種類もの新規分別収集とかで、紙もうっかり捨てられなくなった事を、去年の

じちかいやくいんけいけん じゅくち つま い ちえ
自治会役員経験で熟知していた妻の入れ知恵だ。

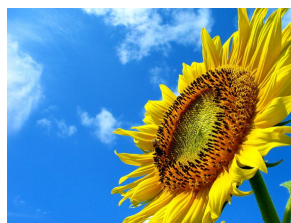
词汇链接



ゆう
憂うつ：郁闷，忧郁，抑郁

やくそく
約束：约定

ねむ
眠れぬ：睡不着





ねんいじょうまえ どうさんかいしや ちょうぼ かみごみ だ
5年以上前の倒産会社の帳簿とはいえ、そのまま「紙ゴミ」として出すのは、はばかれる
じせい
ご時世だ。

て やぶ いっぱんごみ あつか ぼりゆ む き つか いっぱん
手で破いただけだと「一般ゴミ」扱いとなり、それでなくてもボリュームに気を使う「一般
ごみ わがや なんぶくろ だ りゆう
ゴミ」を、我家だけで何 袋も出すのは「ひんしゆく」だという理由だった。

ねんかん あかし いただ ばち あ かって るじつく も
「35年間がんばった証として 頂いても罰は当たらないだろう」と勝手なロジックで持ち
かえ きかい いりよく はつき
帰っていた機械が、威力を発揮している。

しゅれっだ か しげん あつか たいりょう くれ む
シュレッダーに掛けると「資源ゴミ」扱いになって大量でもクレームはない。

ねんかんがんばん けつきよくなに のこ むすめ たから のこ
「35年間頑張って結局何も残らなかったようだけど、娘という宝が残ったからいいか」
しゅれっだー きゆうじ つづ おっと ぼそ い
シュレッダーへの給仕を続けながら、夫がボソッと言った。

つま なに じょうだん おも とき み
妻が、いつも何か冗談を思いついた時に見せ
まんめん え おっと かお のぞ こ
る満面の笑みで、夫の顔を覗き込んだ。

むすめ しゅれっだ のこ
「娘だけじゃないわよ。シュレッダーも残ったわ」

ひと まなつ たからもの い
もう一つ、真夏のひまわりのような宝物を云い
わす じぶん おっと むね なか ちい こうかい
忘れた自分を、夫は胸の中で小さく後悔した。

词汇链接



とうさん
倒産：倒閉，破产
いっぱんごみ
一般ゴミ：普通垃圾
まなつ
真夏：盛夏



ねこ 猫 猫

あおむ はら こねこ むら さま しんたい あた く ちち
仰向けになりその腹に子猫を群がらせる様は、まるで身体を与え喰わせるかのよう。乳を
あた ははねこ なに おも
与える母猫は何を思っているのだろう。

もの だ い な ものおき のらねこ す つ こう
しばらく物の出し入れが無かった物置にいつのまにやら野良猫が住み着き子を産んでいた。

ゆうひ ものおき い ぐち い こ かきいろ ひかり おび ひろ
夕日が物置の入り口からも入り込んで柿色の光の帯が広がる。

ははねこ ところどころけ ぬ きずあと
母猫は所々毛が抜けていたり、はっきりとわかる傷後があったり、ずいぶんとみすぼらし

がいけん
い外見をしている。

はんたい こねこ う しんたい ははねこ きれい な
反対に子猫たちは生まれたばかりの身体を母猫に綺麗に舐めとられていて、ふわふわと

け な ちち す はら ころころ かわい
した毛並みが乳を吸い、腹がふくれコロコロとしていて可愛らしい。

その愛らしさについて子猫に手を伸ばしたら、母猫に威嚇され手を引いた。横になっていた
身体が起き上がるとますますこの母猫の生きてきた跡が垣間見え、そしてずいぶん痩せてい

るのがわかった。

少し後ろに下ってからしゃがみ込んでみたが、
母猫は此方がもう危害を与えないと理解しているのか、
威嚇する気力も無いほどに衰弱しているのか分から
なかったが、ただただ子猫に乳を与えていた。

词汇链接



のらねこ
野良猫：流浪猫

あと
跡：痕迹

ただ：仅仅，只是



いってきます 去去就回

さびれた駅のホーム。

缶コーヒーで手を温めながら他愛のない話をしているうちに、電車が来てしま
った。

発車のベルを聞いて、涙を堪え切れなくなった彼女の頭をなでる。

「いつでも帰っておいで」

そう言って笑おう。

その、つもりだったのに。

「な一に泣いてるの」

背伸びをした笑った彼女に、乱暴に頭をなでられた。

いつもからかわれていた猫っ毛が、彼女の小さな手からむ。

ひっこめようと思っても、涙は次から次へと溢れてくる。

言い訳をしようとしても、嗚咽でまともにしゃべれない。

理想とは程遠い現実に、我ながらげんなりする。

なんて情けない。

「でも」

